

飼料用トウモロコシ不耕起栽培の収量性

【成果概要】

飼料用トウモロコシは、不耕起播種しても定着率が低下することはない、初期生育はむしろ早まる。また、収量は4年程度の短期間であれば耕起栽培との間に大きな差は生じないが、4年間不耕起を継続すると収量がやや減少する。



表1 播種時の定着率

	実播種量 個/10a	定着個体数 本/10a	定着率 %
不耕起播種機	6,536	5,785	88.5
耕起播種機	6,894	6,180	89.6

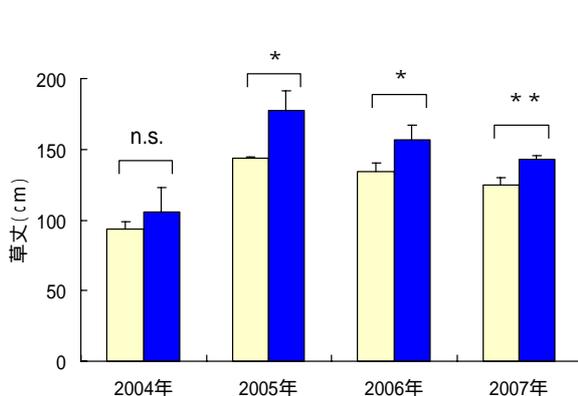


図1 初期生育時の草丈

n.s.は有意差無し、*は5%水準、**は1%水準で有意さを示す。

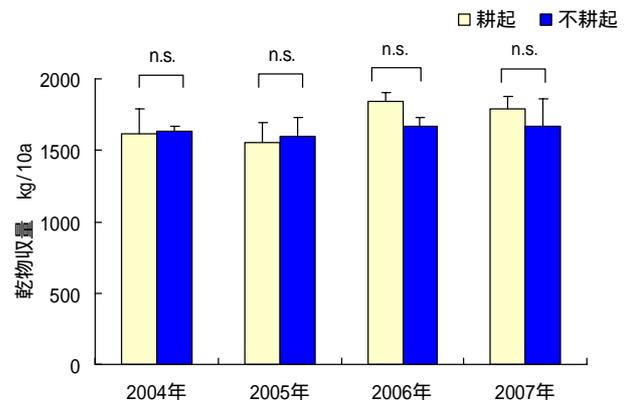


図2 トウモロコシの乾物収量

【留意事項】

- (1) 不耕起栽培は John Sheare NM9500/2、耕起栽培はタカキタ JS4105 にて播種を行った。
- (2) 播種深度を2cm程度とし、播種溝が十分にふさがるように鎮圧ホイールの圧力を強めに設定すると定着率の向上が見られる。
- (3) 今回の試験圃場は岩手県滝沢村(標高250m)である。
- (4) 排水の良い黒ボク土でトウモロコシの単作を行う場合に適用できる。
- (5) 2004年の圃場の前作は飼料トウモロコシである

【適応地帯】

岩手県内全域